

ファイアーストーム詳細要項

2013. 9

国立三瓶青少年交流の家

交流の家の研修としてファイアーストームを実施する団体は、次のことがらを十分理解してその目的達成に努めるものとする。

1. 意義

火は古来から、人間社会の文明の発展に大きく貢献してきた。そして、火は人間の心に愛情と知恵と勇気を与えてくれた。

ファイアーストームは、三瓶山頂で採火した「まことの火」を中心に、雄大な自然と夜のとばりの中で燃えさかる火のごとく若き血をたぎらせるとともに、ある時には厳粛に、ある時は楽しく、自分の心を省み、現在を知り、未来に健やかなまことの人間になることを期待して実施されるものである。

2. 目的

- (1) 燃えさかる炎との一体感を通して、よりよく生きるための意欲を喚起する。
- (2) 交流・交歓を通じて、お互いの友情を深める。
- (3) ファイアーストームのあり方を体験する。

3. 実施の基本事項

- (1) 期 間 原則として、4月～11月の間実施する。
- (2) 時 間 19:00～22:00
- (3) 人 員 400名まで
- (4) 実施団体 交流の家の研修団体
- (5) 運 営 団体の自主運営が望ましい。
- (6) 指 導 者 実施団体が行うことを原則とするが、依頼があれば交流の家研修指導員が行う。その場合、指導は21時までとし、指導時間は1.5時間程度とする。
- (7) 担 当 者 1～2名決めておく。
- (8) 安全管理
 - ア 代表者、担当者は全員をよく掌握するとともに、安全指導の徹底に努める。
 - イ 天候不良・急変等の時、実施の中止を依頼する場合もある。
- (9) 事前打ち合わせ（別紙打合せ表による。）
 - ア 担当者は、事前に人員・実施方法等について交流の家職員と打合せをする。
 - イ 当日の実施までに、交流の家職員と団体の担当者及びスタッフは、実施場所で細部の打合せをする。
- (10) 展開の形態
 - 定型はないので実施団体の任意を原則とするが、指導を依頼される団体は、交流の家の展開方法で実施する。

4. 実施要領

(1) 役割 (スタッフ)

- ア 火の長 (1名) ファイアーストームの総責任者。『火をたたえることば』『研修の成果』『明日への期待』について2分間くらいの内容を。 (主として団体の長)
- イ 火の司 (1名) 全体の司会・進行をする。
- ウ 火の使 (4名) 火の運搬と点火をする。内1名は火の使いのチーフとする。
- エ 火の守 (2~4名) 火床に点火された時から終了まで火の管理を行う。
(※1名は大人)
- オ 火の子 各班ごとに1名。誓いのことばを一言のべる。
- カ 会場係 事前準備・事後の整理を行う。

(2) 班編制 研修者を6班以内に編成する。

(3) 場所 営火場・第2営火場

(4) 用具・材料

交流の家の貸し出しができる物

CD/MD カセットデッキ・ワイヤレスマイク・マイヤレスアンプ・放送設備 (営火場のみ)
 ※但し、指導を依頼した場合、放送設備は使用しない)・懐中電灯・フレキシブルペンライト・まことの火 (移動ランプ)

団体が準備する物

スタンツの小道具・軍手・新聞紙・チャッカマン

[売店にて購入] ファイアースセット・灯油・トーチ (迎火用、送火用と、参加者用) 等

※トーチを持ち込む場合：使用しなかったトーチや、使用後の針金等は持ち帰る。

ファイアースセット等の料金

ファイアースセット 1時間半	5,500円	灯油	時価
ファイアースセット 2時間	7,000円	トーチ1本	150円
ボンファイア (かがり火)	2,500円		

※ 参加者用トーチは一人ひとりを持たず、各グループに1本とするなど、環境に配慮したファイアースを勧めています。

5. 安全管理

研修団体の代表者及び担当者は全員をよく掌握し、安全と事故防止に十分留意するとともに、次の示す体制により緊急事態発生時には適切に対処する。

(1) 天候悪化時 (実施中に雨または強風)

・下記の (2) のア、イ、エに従って適切な処置を行う。

なお、(2) のイの誘導場所は『本館』とする。

(2) 火災発生時

- ア 指揮 火の長…全体を総括し、連絡係を通じて事務室に緊急連絡する。
- イ 誘導 担当者…火の長の指示のもとに、『つどいの広場』へ全員を誘導避難させる。
火の子…班員を掌握するとともに、担当者の指示に従い避難場所に誘導する。
- ウ 消火 火の守 } 火の長の指示に従い、初期の消火に努める。
火の司 } 以後は、交流の家職員の指揮のもとにはいる。
会場係 }
- エ 連絡 火の使…火の長の指示に従い、事務室に連絡する。
- オ 救護 火の使…事故者の救急介護にあたる。

(3) 本部は、事務室とする。

6. 展開

(1) 1部・迎火…まことの火を迎えるセレモニー（約10分）

順序	項目	内容	留意事項
1	全員入場	・開始までに静かに入場し、班毎に位置する。 火の子は、班内の最前列に位置する。	・場内消灯する。 ・整列については会場図参照。 ・私語をやめ静粛にする。
2	歌	・火の司の合図により、「遠き山に陽は落ちて」を斉唱する。 続いてハミングする。	※指導者によってはカットする場合があります。
3	開会のことば	・火の司が開会宣言する。	・「火」はトンネル（野外ステージに向かって左側）から入場する。
4	まことの火の入場	・火の使のチーフは、火の司の合図で火を持ち、場内を1周して火の長の前に立つ。 ・火の使のチーフは、運んできた火を火の長に手渡し、所定の場所に位置する。 ・火の長は受けた火を高くかざして全員に示す。	・場内を1周するとき、時計の逆回りに小走りに走る。 ・全員拍手で火を迎える。 ・全員拍手を強める。
5	火をたたえることば (営火のことば)	・火の長は1歩前に出て火をかかげ、ファイアーストームの意義目的等を1分間位威厳を持って高らかに話す。	
6	点火	・火の使（3名）は営火長の前に出て分火をうける。 ・火の使は、火床まで進み4地点に立つ。 ・火の使は、火の長の「点火」の指示で火をかざし点火する。	・最後に火の使のチーフは、火の長のトーチを受け止める。 ・火の使は4名。 ・まき組の下に点火してトーチはつつこんだままにしておく。
7	献詞	・火の司は、火をたたえることばをのべる。	
8	歌	・全員で「燃えろよ燃えろ」を斉唱する。	※指導員によってはカットする場合があります。
9	1部終了のことば	・火の司は、1のまとめにことばをのべる。	・場内を明るくする。

(2) 2部・交歓・・・楽しく和やかに（約50分）

1	・ゲーム・ソング・フォークダンスなどを、火の司の進行で行う。
2	・各班のスタンツ（出しもの）を、出入れを含めて5分以内で披露する。
3	・火の司のインタビューなどで、楽しい語らいをする。
4	・その他、臨機応変に火の司の進行で実施する。

※火の守は火床の管理をする。2部の終わりごろには、まき組みをなくして（燃やして）小さな炎にする。

(3) 3部・送火…まことの火を送るセレモニー（約20分間）

順序	項目	内容	留意事項
1	整列	・全員静かにトーチを持って、所定の場所に位置する。	・場内消灯。 ・火の使のチーフは、自分のトーチも準備する。 ・トーチは、火のついた方を上にする。
2	歌	・火の司の合図で、「ふるさと」「校歌」等を斉唱する。	・歌えなければ、無しでも可。
3	分火	・火の使のチーフは、火床の前に進み炎から採火し高くかざす。 ・火の使のチーフは、営火長の前に進み火を手渡し元に戻る。 ・火の長は火を高くかざし全員に示す。 ・火の子は、火の司の合図で営火長の前に半円形に整列する。 ・火の長は前に並んだ各火の子に、ファイアーネームを言って分火する。 ・火の子は分火された火を班に持ち帰り、中央の人に（2列以上の場合は後ろにも）の人に分火する。 ・分火してもらった班員は、それぞれ隣の人に分火する。 ・火の司は、分火の状態を見ながらナレーションを入れる。	・「〇組 or 〇班には〇〇の火をさずけます。」 ※トーチの扱い方 ・火がついていない時：下向き ・火をつける時：上向き ・火がついたら：上向き ・振り回さない
4	誓いのことば	・火の子は、班員に分火される間に、火の長の前に半円形に再び整列する。 ・各火の子は、1歩前を出て火を高くかかげて「誓いのことば」を述べ元に帰る。	・はっきり、ゆっくり述べる。（台本を見ながら言ってもよい） ・「〇組 or 〇班には〇〇の火をいただきました。（誓いのことば中身）…することを誓います。〇組 or 〇班代表 [フルネーム]」
5	営火長のことば	・火の長は1歩前を出て火を高くかかげて、「研修の成果」「明日への期待」を1分間位述べる。	・バックミュージックを低く流す。
6	むすびのことば	・火の司は、営火長のことばをうけて、研修者にふさわしい詩の朗読や生きがい論について話す。	
7	全員退場	・全員がきちんと並んで退場する。 ・火の長と火の使チーフは全員退場するまで見守る。 ・火の司は、火の燃える状態を見ながらナレーションを入れる。	・歌「蛍の光」「今日の日はさよなら」等をハミングする。 ・やけどしないように前後の間隔に気をつけて退場する。 ・場内を明るくする。

7. 実施上の留意点

(1) 準備物

- ア 燃料（ファイアーセット、灯油、トーチ）は、活動打合せ終了後（入所後）、交流の家内売店（さんべの家売店）で購入する。
- イ トーチは、使用本数を事前に交流の家に連絡する。
（研修指導員が指導する場合は、火の使用＋火の子用＋送火用2本準備する）
なお、トーチを持ち込む場合は、使用しなかったトーチや、使用後の針金等は持ち帰る。

(2) 会場設営

- ア 会場係を中心に火床にまきを組む作業を行う。
- イ トーチに灯油をしませ所定の位置におく。布のある方を下にしておく。
※2部の終了直前まで、灯油に（少しでもよい）つけておく。
- ウ 点火用の火種として、灯油をしみこませた新聞紙を点火箇所を設置しておく。

(3) 実施後の整理・清掃

- ア 終了直後に、消火を中心とした後始末を行う。
- イ 翌朝の清掃時間に、会場係を中心に清掃を行う。
- ウ 持ち込んだ、丸太・薪・トーチのごみは全て持ち帰る。

(4) 購入物品の支払い方法

ファイアーセット代・灯油代・トーチ代は、直接「さんべの家売店」に支払う。

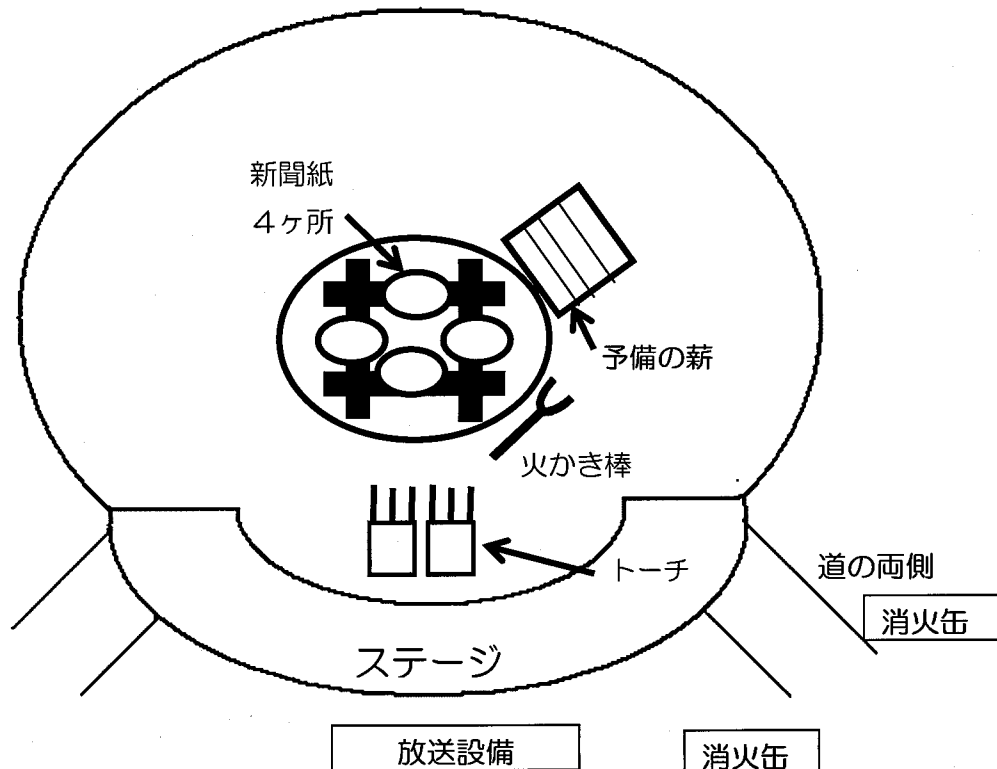
(5) 事前・事後報告

担当者は、ファイアー点火時・消火時に必ず事務室に報告をする。
※それを受けて、交流の家から消防に連絡を入れるため忘れず行う。

(6) その他

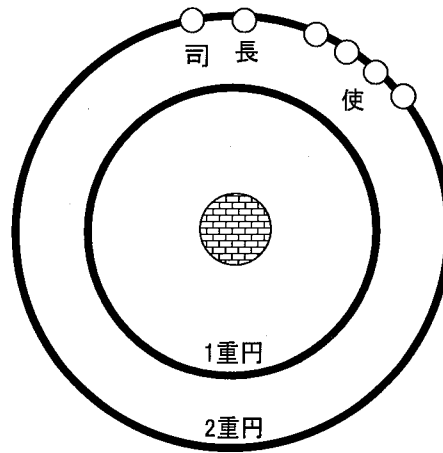
会場への往復は静かに移動する。

8. 会場図



9. 歌（指導を依頼された場合に使います。）

正面



重円で実施
〈反時計回り〉

1重円で約120名

※退場経路を打合せ時に記入する

火の長の詞(例)

始めのことば【学校向け】

今、女神が運んでくれた炎が点火されました。
この炎をじっと見つめてください。私たちに、協力、団結、理想、愛を語りかけてくれます。

《協力》薪が1本だったら、小さな火にしかなりません。それが何本も集まり、お互いがお互いを燃やし合い、協力して大きな炎になっているのです。

《団結》このファイアーの井桁は、それぞれの薪が崩れる事をなくしっかりと結び付いています。そして、空気が通りやすく薪が燃えやすいように組み合わせているのでよく燃えるのです。

《理想》たった一つの火です。高く神々しく燃える火は、暗闇の中で私たちに照らし、私たちにいく先を導いてくれます。少しでも、理想に近づきたいものです。

最後は《愛》です。火は自らを燃やししながら明るさ・暖かさを与えてくれます。火が燃えれば燃えるだけ、みんなを輝かせます。この暖かさと優しさは、自然を愛し、人の命を愛することに通じます。

この炎を囲んで、楽しいつどいを過ごしましょう。

【一般向け】

“一期一会”という言葉があります。今の出会い、今この時はもう二度と還って来ないという意味ですが、まさに、今燃え上がっている炎とここに集まった皆さんとの今の出会いはもう二度と持つことはできません。過ぎ去った一瞬を取り戻すことも決してできません。今燃えて、私たちに光と熱を与えてくれる薪は、その二度とない命をかけています。

輝く一瞬一瞬を積み重ねることで、光り続ける事ができるのです。

今日は、あの薪の様に、悔いのない時にしたいと思います。今夜は心のかみしもを脱いで、命を燃やして明日につながる価値ある時を、あなたの歌声・手拍子を折り束ねて作り上げようではありませんか。

◎終わりのことば【学校向け】

すばらしいファイアーでした。みんなが力を合わせて頑張ったからすばらしいファイアーになりました。

あんなに赤々と燃えていた炎も、今は静かに大地に還ろうとしています。でもみんなの心の中には、赤々と燃え続ける炎が見えると思います。目を閉じると、一生懸命燃えているファイアーと、その周りで楽しそうにしているみんなの顔が見えます。このすばらしい体験を一生持ち続けてください。このキャンプで学んだ協力の大切さや仲間のすばらしさを、これからの生活の中に持ち帰ってください。

【一般向け】

みんなで囲んだ火。あんなに燃え盛り、大きく明るかった火も、今はこんなに小さくなってしまいました。やがてこの火は消えてしまいますが、皆さんの心の中の火は消えることがないでしょう。心の中の火が次々に広がり、仲間の和に未来を照らす火になることを祈りましょう。

一週間後の今日、私たちはどんな過ごし方をしているのでしょうか。普段は、文明生活に慣れきっている私たちです。でも、ここに集まって本当にすばらしいキャンプを持つことができました。この地球という自然の中で生きていることが確かめられました。

私たちは、自然から何を感じ、火から何を学び、仲間から何を知ったのでしょうか。そして仲間は何を贈ることができたのでしょうか。火はやがて消えてしまいますが、私たちの心の中に燃え上がる“火”を大切に、いつまでも燃やし続けたいものです。